

優秀賞

小学生部門

賢明学院小学校 5年

竹田 真理子

0点取ってもええんやぞ

「0点取ってもええんやぞ」

これは、お父さんが私にかけてくれる言葉です。この言葉を聞くと、私は肩の力が抜けてリラックスできます。私にとっての魔法の言葉です。

いつもは、学校の宿題や勉強をお母さんが見てくれています。そんな時、同じ問題を何度も間違えたり、計算ミスをするとお母さんに怒られます。

「何回間違ってるのっ!」

……とても怖いです。私の中にある『やる気メーター』が急降下します。そして嫌々、問題を解いていると余計に間違えて、ますますお母さんに怒られます。テスト前にもなる和尚更です。

そんな時、お父さんが私に言ってくれます。

「真理子、0点取ってもええんやぞ」

「テストっていうのは、自分の弱点を知るためにあるんやから、点数なんて気にせんでええんやぞ。今のうちに、どんどん悪い点とって、挫折を味わった方がええぞ。人生、挫折なしには生きられへんのや。大人になってから挫折すると、しんどいぞ。今のうちに、いっぱい挫折しとけ。そういう経験は、大事なんやぞ。思い切って0点とってこい」

その言葉で、私の体と心は安心感で包まれているような気持ちになります。言葉には人を救う不思議な力があると思います。言葉は気持ちや思いを一瞬で変えてしまう魔法だと思っています。

お父さんの言葉に、心が温められ、オレンジ色の空気の中で、机に向かう私があります。さっきまで、急降下していた私の『やる気メーター』の目盛りは、いつの間にか上昇し始めています。

「0点取ってもええんやぞ」

この言葉を味方にして、おだやかな気持ちで算数の問題を解くのです。